

オホーツクの風

令和元年8月21日(水) 0024号

発行所

北見赤十字病院の
明日を考え支援する会

事務局

北見市緑ヶ丘1-10-16
Tel 0157-61-0684

エリザベス・トリニタス病院と医療連携

姉妹都市提携50周年記念

北見赤十字病院 確認書に調印



Welcome ! to Our Friends From Elizabeth,USA

エリザベス市から
クリスチャン・ボル
ウエッジ、エリザベ
ス市長ご夫妻や平成
26年にも来北して
いる同市保健福祉部
長のクリシュナ・ガ
リックさんら一行
15名が北見市を訪



エリザベス市長を
お出迎え

れました。
その行事のひとつ
として『北見市・エ
リザベス市姉妹提携
50周年記念「姉妹
都市提携・医療連携
確認書」調印式』が
令和元年7月8日
(月)午後1時30



保健福祉部長を
お出迎え

分から、北見赤十字
病院北館3階大会議
室で行われた。
トリニタス病院・
ゲイリー・ホラン院
長のビデオが放映さ
れ、その後、北見赤
十字病院の荒川院
長、エリザベス市長、

北見市長が確認書に署名した。
調印は「アメリカ合衆国エリザベス市と日本国北見市、姉妹都市提携50周年を記念するにあたり、両市間におけるより深い友情と友好親善の促進を、今後とも末永く継続するとともに、トリニタス病院と北見赤十字病院が、より質の高い医療環境を確保することを旨として、相互に有する医療機能を発揮し、緊密な医療連携を図っていくことを確認する」ものです。
荒川院長は署名後、「ニュージャージー州エリザベス市と日本の北見市は姉妹都市で、その縁があり、今日、トリニタス病院と確認書に調印することができ



確認書に調印

ました。トリニタス病院はセントエリザベス病院とエリザベス総合医療センターが2000年に統合された病院です。
北見赤十字病院は1877年に日本赤十字社の病院として北海道で2番目に設立された病院で、患者に寄り添う「人道・博愛」の精神の基、



確認書を報道機関に披露

地域医療に重点を置いていきます。今後の病院の若手の育成はこの連携によって進み、安心・安全な医療が提供できることを願っています」と挨拶を結んだ。
今年10月には同市訪問団に北見赤十字病院の役員が参加しトリニタス病院を視察する。

北見での思い出づくりの集い

研修医の先生方を招いて 第6回 開催

令和元年7月28日(日)、お天気は晴れ、臨床研修医の先生方を招いての「第6回北見での思い出づくりの集い」開催の朝を迎える。

臨床研修医9名(2年次・3名、1年次・6名)と齋藤副院長はじめ医師や事務部門の皆さん23名が病院から参加、それに当会の14名が加わり、総勢37名が会場の野付牛公園に集う。

午前11時30分からのオープンセレモニーを行う、自己紹介、代表挨拶、思い出づくりの集いに参加しての研修医のコメント等式次第の後、記念撮影。時刻は正午になり、6台の炭焼きコンロの席に移動し

て、副院長の乾杯で焼き肉と地ビールでの交流が始まった。

今回のメニュー

▽味覚園焼き肉コース。牛さがり、牛カルビ、豚カルビ、



オープンセレモニーの代表挨拶

豚ホルモン、豚トロ、鶏肉、焼き野菜(キヤベツ、玉ねぎ、にんじん、ピーマン)、白菜キムチ、調味料(生特製タレ、調合塩コショウ)。

▽漬物。キュウリ



副院長先生の音頭で乾杯

の板ズリ浅付けスツテック仕上げ、会員の阿久津さんが調理して冷やして会場に持ち込む。

▽フルーツ。北見メロン、昨年は研修医で今年は医師で参加の笹井先生の差し入れで、総務課の皆さんが調理をしてくれました。

▽デザート。アイスクリーム(グリコSUNAO・バナラとチョコ克蘭チ)▽ごま塩おにぎり。

▽飲み物。オホーツクビール・サーバー(サービス(エール)、コーラ、ミツ矢サイダー、生茶、ウーロン茶他。

開催の謂われ

北見赤十字病院では臨床研修医を積極

的に受け入れていきます。病院は齋藤副院長が中心になり、研修プログラムの組み上げやその指導に取り組んでいます。

北見赤十字病院を臨床研修のステージに選んだ研修医の皆さんは内科や救急科など様々な分野を経験する期間で早朝から夜まで多くの患者さんを診察します。

馴れない土地で熱心に勉学に励む先生方に北見市民として感謝の気持ちを伝えたく、北見での研修が少しでも楽しかったとの印象を残して欲しいとこの集いを始めました。

本会はこの事が北見での医師確保の一助になればと願って、平成26年から(3面に続く)



お天気に恵まれて焼き肉と地ビールでの交歓

毎年開催していま
す。

抽選会

会の下元理事が重
たい発泡の箱を抱え
て会場に到着。発泡
の箱には氷がぎっし
りと、そのなかにア
イスクリームが埋ま
っていて。氷をかき
分けそれぞれが取り
出し、味わう。
抽選会が始まりま
す。パート1は全員
が当たる抽選です。
景品は(株)北見ト



研修医限定抽選会、
銀賞(トリトン食事
券)当選

ヨペットと(株)シ
モト工芸社からの
提供です。
長南理事が0から
9までの番号を読み
上げます、それぞれ
の名札の番号に従っ
て景品をチョイスし
ます。

パート2は研修医
10名だけの限定抽
選で、先生方の名札
の番号で行います。
大賞1本、トリトン
の食事券、銀賞3本、
同じく食事券です。
まず銀賞3本の抽
選です、副院長が当
選番号を読み上げま
す。当選の研修医の
皆さん、おめでとう
ございます。

引き続き、銀賞1
本の抽選です、会の
代表がその番号札を
抽選箱から取り出し
ます、4番です。当
たった先生は大喜び
です。

交流コメント

臨床研修医がコメ
ントを発表する参加
者との交流コーナー。
▽札幌医科大学の麻



それぞれの炭焼きコンロは盛り上がっています

スズラン	ミスバショウ
フクジュソウ	スマレ
クロユリ	アッケシソウ

酔科にいますが、来
年も北見日赤の麻酔
科を考えています。
この会を開いてくだ
さり有り難うござい
ます。(研修2年次)
▽北大小児科にい
ますが、来年3年目
も北見日赤小児科で
研修をしたいと考え
ています。北見出身
です。食事も美味し
く、観光にも適して
いると考えていま
す。(研修2年次)

▽出身は函館で
す。進路は北大循環
器科を希望していま
す。この会を開いて
くださり、有り難う
ございます。(研修
2年次)
▽旭川生まれで、
祖母が北見在住な
ので北見日赤を選び
ました。将来は旭川
の病院のリハビリ科
に進む予定です。(研
修1年次)
▽4月から循環器

内科で、次は産婦人
科です。北見で研修
が出来てよかったと
思っています。この
会も有り難いです。
(研修1年次)
▽徳島生まれ、北
見は何でもあってス
テキナ町で、徳島よ
り大きいと感じてい
ます。患者さんと向
き合って診療をした
いと考えています。
(研修1年次)
▽日々慣れるのに

精いっぱいです。患
者さんとコメディカ
ルの方としか接して
いないので、市民の
方と接触が出来てよ
かったです。(研修
1年次)
▽生まれも育ちも
九州熊本、北見に来
て4カ月、日々頑張
りながら前に進みま
す。
▽札幌医科大学でも
精神科でした。今後
も精神科を希望しま

す。(研修1年次)
名残惜しさを残し
ながら、谷川福代表
がお開きを宣言し、
第6回は無事に終了
しました。
◇ ◇ ◇
後援の味覚園栄町
店、オホーツクピア
ファクトリーから特
別価格で商品を提供
戴き、厚くお礼を申
し上げます。



研修医のコメン
トで市民と交流

高齢者軍団が行く

副代表 谷川勝男

十年。
十年一日とか、十年一昔とか。

何かぼんやりとしたままスタートした「支援する会」も、その十年。

会の活動に命を吹き込んでくださったのは、逢坂信治代表。

六年前、研修医の先生方との焼き肉交流会が提案されて、戸惑いつつも回を重ねて、今では、余裕を持って若い研修医の皆さんをお迎え出来るまでになった。

逢坂代表が「味覚園」と「オホーツクビール園」の温かなご協力を取り付けてくださったって、今に至る。

会が誇れる、かけがえのない取り組みとすることが出来ると思うのである。

その六回目、齋藤

高彦副院長先生がご参加くださり、会員のささやかな活動に、身にあまるメッセージを戴いた。

そして、六つのグループ(焼き肉のコンロ)それぞれに顔をだしてくださったの歓談・交流、忘れがたい”思い出”をつくつて戴き、ありがとうございます。

出合いの一瞥で、その人の好悪は分かる。人の”顔”はごまかしようがないから。

いうまでもなく「主役」は、「研修医」の先生方。

たまたま隣り合ったのが川人慎先生。

両親がともに医師である、と教えられた一瞬で、川人先生

への好感度が増した。

両親が医師なら超絶的、文字通りのエリート。が、川人先生の表情にはエリート”臭”のかけらもない。そういう”息子の表情”をつくられたご両親の在り方への尊敬の念を深くさせられた。

要名本あゆみ先生。なんと、なんと。苗字をなんとお読みすれば良いか。それでお声をかけることができた。人一倍ナイーブで、特に”女性”に弱い副代表が。

女性を排除した医大があった。それは女性への差別ではあったが、より以上に、”恐れ”であったと思う。

今、この国では、あらゆる分野で女性”上位”の気配が

ただよいはじめている。大好きな女優が吉田羊さん。

「メデイカル レイ・ダ・ヴィンチの診断」は女性医大活躍のドラマ。台本がいいし吉田羊さんの”主役”ぶりがいい。

会場で要名本あゆみ先生の様子が、女医吉田羊にかさなつた。

医療ドラマで、女医はまだ”特別”なあつかい、しかし”ドクターX”の登場は近い。

支援する会は十年前、一方的な「勝手連」のようにスタートしましたが、病院の皆様が応援してくださる”窓口”としてお世話くださったのが歴代の総務課長さんと、係長さんでした。

今は、鈴木由美子課長さんと高松伸行係長さん。

高松係長はいつもひかえ目、けれど道

立のお二人と日赤の若い職員の方たちとともに、文字通り縁の下の力持ち、焼き肉交流の準備と後始末に心して、格別のご協力をいただいたことに改めて感謝申し上げます。

そして、鈴木由美子課長。

院内でのお姿とはまた違って、九頭身かと思わせる美しさのリズムあるイメー

ジで暑さを吹きとばしてくださった。八頭身美女伊東絹子さんが、この国に勢いをつけてくださったのは敗戦後程な

このこと、今や、滝川クリステルさんが進次郎妻として登場なさるまでに「国際化」は進化している。そんな時代の鈴木課長は、さりげない気配りで、周りの気持ちに勢いをつけてくださっているかのよう。

中川昌彦・真希さんご夫妻は阿久津俊

子さんのご家族。初めての参加で、研修医の先生方が焼き肉を存分に楽しめるようにしてください。

森実和美副代表が一家の”三きょうだい”は六回目の参加。

親子兄妹の家族がそろって”大人”の催しに参加というのも「支援する会」ならではのことで、活動が十年継続できたことの”成果”といっても良いだろう。

謙田照視さん。高齢者軍団の「支援する会」の高齢者のお一人。

ビールのお世話を

して下さって六年。目立たないところで、淡々とお手伝い

くださって、会を支えて下さっている。人は、老いて、やがて去って行く。この「会」も、いつの日か、そのようにして消えていくと思いますが、悔いなしと思えますが。



北見での思い出づくりの集いの6回目も晴れでした。平成26年の1回目から雨にあたったことはありません。天のご加護を信じる思いです。

今回は森実副代表、森実事務局次長や阿久津さんのご息女とそご主人など若手が活躍したのが大きな特色です。

彼らは会場の設営、食品の管理等意欲的に活動を展開し、主催者側の活動は若返った。

来年も若い皆さんと共に支援する会の活動が出来ればと願っています。

思い出づくりの紙面作りで多くの写真を使っています。今回は病院の教育研修推進室の伊藤さんのご了解を得て、写真を複数枚利用しています。有り難うございました。

(逢坂)